

# 目高飼ふ

森岡 正作

鮎釣らる山河の彩をしたたらせ  
夏山の宿天上に星敷けり  
濁世に打ち上げられて昼寝覚む  
ガリバーのやうな男が目高飼ふ  
何よりも伯母の扇子の動きやう  
夏痩せて変人の域近うせり  
機関車にも余生ありけり青しぐれ

## 独り身の

今年の西瓜は失敗であった。いつもは良かったのかと聞かれても、そうとは言いい切れないのであるが、ともかく満足のいく西瓜は一個も収穫出来ずに終了した。小学生の頃、友達に西瓜を上げるよと言われて、大きな西瓜を載せた自転車を押して喜んで帰って来たのであるが、後日他人の畑を荒らしたと担任の斉藤ミツ先生に怒られたのであった。その時の大きな西瓜が忘れられず、西瓜は大玉と決めていつも作るのである。今年はお断りして、瓜類の葉っぱを好む蠅のような虫にやられたのはじめ、中玉ぐらいに大きくなつては割れてしまった。猛暑のせいかもしれないが何とも言えない。

登四郎先生の全句集の中から西瓜の句を一句見つけた。《独り身の西瓜いつまでも冷し置く》という御句である。大きな西瓜に違いないが、確かに一人だと手が出ない。今は切り分けられた西瓜が人気である。冷蔵庫に入らないと言う。昨年、孫に食べさせようと車で帰る息子夫婦に一番大きな西瓜を用意したが、「要らない」と言われてしまった。

誰が何と言おうと、来年もまた大玉西瓜に挑戦するつもりである。